

通し番号	3703
------	------

分類番号	12-24-12-02
------	-------------

4月播き茶豆系エダマメの有望品種及び最適な株間、収穫適期 - 露地マルチ栽培 -	
<p>[要約] 食味等から本県の直売等に向くと思われる茶豆系エダマメの有望品種選定及び最適な株間、収穫適期について検討した結果、草姿、収量性及びゆで莢の外観に優れ、糖含有量が多かった「一番茶」が最も有望であり、株間は18cm、莢の着色と糖含有量から収穫適期は35日前後が最適であった。次いで「味一番」が有望で、株間は21cm、収穫適期は38日前後が最適であった。</p>	
農業総合研究所 生物資源部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

在来種で食味が良い茶豆を元に、早生性及草姿等の早生エダマメとして重要である形質を改良したエダマメが育成されてきた。そこで新鮮さや食味が重要な本県の直売経営等に有望と思われる茶豆系エダマメの特性を調査し、優良品種を選定する。本年度は昨年度行った試験結果により検討する必要があると思われる茶豆系エダマメにおける栽植密度(株間)および収穫適期について検討し、同時に有望品種を選定した。

[成果の内容・特徴]

- 1999年度の結果：茶豆系エダマメでは草姿や食味などから「一番茶」、「HS茶々丸」、「さきがけハニー」及び「味一番」が有望と判断された。なお株間は15cmで行った。
- 株間試験は株間を18cm及び21cmの2水準で行った。
- 収穫適期試験は開花後29、32、35、38日にサップリングを行い、遊離糖含有量は1%スルホサリル酸を加え、ホムナイスし、高速液体クロマトグラフィーで測定した。
- 耕種概要については、播種は1999年度は4月20日、2000年度は4月28日、うね幅120cm、条間45cmの2条2本立ち栽培とした。
- 主茎長は昨年度の株間の15cmと比較して18cm、21cm区とも非常に短くなり、良い草姿となった。18cm区と21cm区では大きな差は認められなかった。品種間では「夏の夕」、「HS茶々丸」、「福成」及び「一番茶」が主茎長が短く良い草姿であった。
- 収量は株間及び栽培法によって異なる傾向が見られた。良莢重について面積当たりで換算すると、「味一番」は株間21cmで多収となり、他の品種は株間は18cmで多収となった。品種間では株間18cmでは栽培法に係わらず「一番茶」が、株間21cmでは「さきがけハニー」及び「味一番」が多収であった。
- 茶豆系品種は完全に開花せず閉花受粉してしまう品種が多く、開花期の判定が難しかった。
- 外観形質は生莢色については「サッポロミドリ」より黄色がかっていて劣る品種が多かったが、ゆで莢色はほぼ同等のものが幾つか認められた。
- 収穫適期についてはすべての品種が開花後40日で莢の黄色または紫色の着色が認められた。一方でほとんどの品種の糖含有量は開花後38日でも増加しており、遅ければ遅いほど甘さに関しては良好となっていた。そこで収穫適期は莢の着色前と、「一番茶」は開花後35日前後、「味一番」は38日前後と判断した。
- 収穫適期の糖含有量は「味一番」で多く、次いで「夏の夕」、「一番茶」で多かった。
- 以上のことから、草姿、収量性及びゆで莢の外観に優れ、糖含有量の多かった「一番茶」が最も有望と判断された。なお、株間は18cmが最適で、収穫適期は35日前後と推察された。次いで「味一番」が有望であった。株間21cm、収穫適期は38日前後と推察された。

[成果の活用面・留意点]

- 収穫適期については播種期を本試験より早くした場合は若干伸び、遅くした場合は短くなるので注意する。
- 開花期は収穫期を決定する上で重要であるが、栽培条件によっても変わるが、茶豆系エダマメは閉花受粉するものが多く、開花が目立たないので注意する。
- 茶豆エダマメは独特の風味があるので、従来のエダマメと区別して、「茶豆」ということを明らかにし販売する。

[ 具体的データ ]

表 1 株間18cmにおける茶豆系エダマメの生育・収量特性(2反復平均、1株当たり)

品種名	開花期	収穫期	主茎長	総莢数	総莢重	良莢 <sup>z)</sup> 率	良莢 <sup>y)</sup> 重	種苗会社
一番茶	6/ 3	7/ 5	26.1cm	29.2個	53.8g	85.3%	50.1g	渡辺探種場
H S 茶々丸	6/ 4	7/ 6	26.1	19.2	35.3	79.2	31.3	原育種園
さきがけ八二一	6/ 1	7/ 3	35.9	27.1	40.6	79.5	35.7	原育種園
味一番	6/ 4	7/ 6	32.1	24.5	38.4	76.3	33.5	原育種園
夏の調べ	6/ 2	7/ 4	36.4	24.7	38.3	81.0	33.8	サカタのタネ
夏の声	6/ 3	7/ 5	30.9	22.8	39.2	87.5	36.4	サカタのタネ
夏の夕	6/ 3	7/ 5	24.3	21.0	37.0	77.6	32.3	サカタのタネ
福成	6/ 3	7/ 5	24.3	23.0	38.5	79.6	33.8	タキイ種苗
サッポロミドリ	6/ 4	7/ 9	27.1	30.0	59.9	86.7	55.8	雪印種苗

2粒莢以上のものを良莢とした。また3粒莢以上のものは3粒莢とした。  
z):良莢率 = (2粒莢数 + 3粒莢数) ÷ 総莢数 × 100、y):良莢重 = 2粒莢重 + 3粒莢重

表 2 株間21cmにおける茶豆系エダマメの収量特性(2反復平均、1株当たり)

品種名	開花期	収穫期	主茎長	総莢数	総莢重	良莢 <sup>z)</sup> 率	良莢 <sup>y)</sup> 重
一番茶	6/ 7	7/ 9	27.3cm	26.9個	54.7g	76.2%	48.5g
H S 茶々丸	6/ 7	7/ 9	27.7	17.9	39.2	68.7	31.9
さきがけ八二一	6/ 5	7/ 7	35.7	37.4	55.6	81.8	50.2
味一番	6/10	7/12	44.2	32.5	57.2	82.2	51.9
夏の調べ	6/ 5	7/ 7	35.1	27.8	41.8	92.1	39.8
夏の声	6/ 8	7/10	37.0	18.3	34.8	81.4	31.6
夏の夕	6/ 7	7/ 9	26.9	30.4	52.1	78.6	45.9
福成	6/ 5	7/ 7	26.6	35.8	49.8	83.8	45.2

2粒莢以上のものを良莢とした。また3粒莢以上のものは3粒莢とした。  
z):良莢率 = (2粒莢数 + 3粒莢数) ÷ 総莢数 × 100、y):良莢重 = 2粒莢重 + 3粒莢重

表 3 茶豆系エダマメの開花特性、主な莢の形質および収穫適期

品種名	花色	開花特性	生莢色	毛茸色	ゆで莢の外観	莢の着色期	収穫 <sup>z)</sup> 適期	収穫適期の遊離糖含量
一番茶	白	半開	黄緑	薄茶	やや良	38日以上	35日前後	3.64%
H S 茶々丸	白	開~閉	黄緑	薄茶	良	38日	35日前後	3.14
さきがけ八二一	紫	閉	黄緑	茶	中	35日	32日前後	2.20
味一番	白	開~閉	黄緑	茶	良	41日	38日前後	4.17
夏の調べ	薄紫	半開~閉	やや黄緑	茶	やや不良	35日	32日前後	2.27
夏の声	白	開~半開	黄緑	薄茶	良	41日	38日前後	3.50
夏の夕	白	開~半開	黄緑	茶	中	38日	35日前後	3.88
福成	白	半開~閉	黄緑	薄茶	やや良	38日	35日前後	3.34
サッポロミドリ	白	開	緑	白	良	41日	35日前後	3.34

z):糖含量のピークと莢の着色期により判断した。

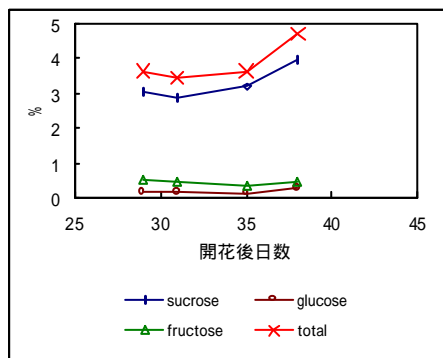


図 1 「一番茶」の糖含量の経時変化

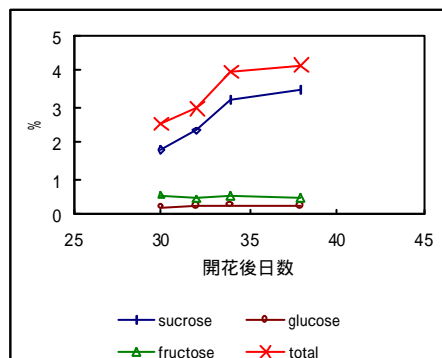


図 2 「味一番」の糖含量の経時変化

[ 資料名 ] 平成12年度試験研究成績書(野菜)  
[ 研究課題名 ] 茶豆および黒豆系エダマメの品種特性検定試験 - 露地マルチ栽培 -  
[ 研究期間 ] 平成11~12年度  
[ 研究担当者名 ] 農業総合研究所生物資源部・経営情報部 井上治郎・吉田誠